

「反20世紀」的建築の創造

—現代のアーキテクト・

都市プランナーへのメッセージ—

基調講演 隈研吾

(建築家・東京大学教授)

建築家、都市計画家の職能が、今、大きく変わりつつある。

突出したアイデアや奇抜なデザインで目を引くのではなく、市民との対話を粘り強く繰り返し、社会の多様なニーズをバランスよく読み込んで、まとめ上げる力が求められているようだ。

転換期にあるアーキテクト、都市プランナーの分野で、今、必要とされる技能や心構えを、新国立競技場の建設プロジェクトを担う、隈研吾氏から学ぶ。

東大まちづくり大学院に通い、様々な立場で活躍する社会人学生が、討論者として隈氏と意見を交わす。

2016年 4月9日(土) 18:30~20:30

東京大学本郷キャンパス(浅野) 武田先端知ビル 5階ホール

18:30~19:30 隈研吾 教授 講演

19:30~20:20 ディスカッション・質疑応答

20:20~20:30 原田昇 教授(東大まちづくり大学院コース長) 挨拶

司会: 寺田徹(東大まちづくり大学院特任講師)

申込

電子メールに、件名を「4月9日イブニングセミナー参加希望」として、本文にお名前・ご所属をご記入の上、以下のアドレスにお送りください。参加費は無料です。会場の定員になり次第、お申込みを終了させていただきます。
seminar@mps.t.u-tokyo.ac.jp

講演者プロフィール

隈研吾 教授

1954年横浜生。1979年東京大学建築学科大学院修了。85-86年に米国・コロンビア大学客員研究員。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。2001年~2008年、慶應義塾大学教授。2009年に東京大学教授に就任、現在に至る。初期の主な作品には、亀老山展望台(1994)、水ノガラス(1995、全米建築家協会ベネディクタス賞)、1997年「森舞台/登米市伝統継承館」(日本建築学会賞受賞)、「馬頭広重美術館」(2000、村野賞)、グレート・バンブー・ウォール(北京、2002)など。近年では、日本国内で、サントリー美術館(2007)、(根津美術館(2009)、梶原木橋ミュージアム(2010)、浅草文化観光センター(2012)、長岡市役所(2012)、歌舞伎座(第五期・2013)、九州芸文館(2013)、中央郵便局KITTE(2013)、豊島区庁舎(2015)、富山キラリ・富山市立ガラス美術館・図書館(2015)、小松精練Fabo(2015)などを発表。海外では、フランスに、プザンソン芸術文化センター(2012)、FRACマルセイユ(2013)、ダリウス・ミヨー音楽院(2013)、エントレポット・マクドナルド(2014)、リヨン・コンフレアンスHIKARI(2015)、中国・杭州で中国美术学院杭州民芸博物館(2015)などを完成させている。

進行中のプロジェクトでは、スコットランドのヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム・ダンディー、スイス・ローザンヌのEPFL(スイス連邦工科大学)のほか、フランスのサン・ドニ駅、アルペール・カーン・ミュージアム、イタリアのパドヴァ・コンベンション・センターなどがある。

海外での受賞歴には、2002年にスピリット・オブ・ネイチャー・ウッド賞(フィンランド)、2007年にベストグローバルデザイン賞(ちょっと蔵プラザ&シェルター)、2008年にはフランスのエネルギー・パフォーマンス建築賞などがある。また、RIBA国際会員、AIA(全米建築家協会)名誉会員も務めている。

著書は、『自然な建築』(岩波新書 2008)、『小さな建築』(岩波書店 2013)、『日本人はどう住まうべきか?』(養老孟司氏との共著 日経BP社 2012)、『建築家、走る』(新潮社2013、新潮文庫 2015)、『僕の場所』(大和書房)等があり、多くが海外で翻訳出版されている。英語訳は『反オブジェクト』、近著の『自然な建築』『小さな建築』は中国、韓国でも出版され、英訳(村上春樹の翻訳で知られるAlfred Birnbaumによる)は、2015年10月にロンドンのAA Publicationsより刊行された。

ディスカッサント(討論者)

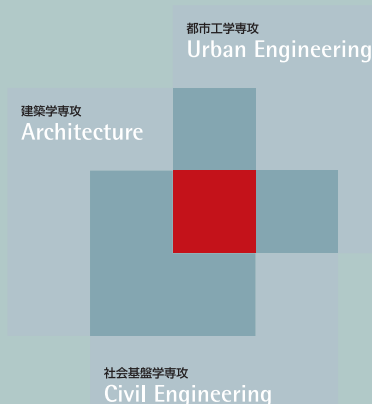
榎原由紀子(東大まちづくり大学院8期生、(株)石本建築事務所)

深谷 信介(東大まちづくり大学院6期生、(株)博報堂、富山市政策参与・桜川市参与、博士課程在学)

松本 昭(東大まちづくり大学院1期生、(株)市民未来まちづくりテラス、元自治体職員(鎌倉市・国分寺市)、博士(工学))



東京メトロ(地下鉄)千代田線 根津駅下車1番出口 徒歩7分
東京メトロ(地下鉄)南北線 東大前駅下車1番出口 徒歩10分



mps 東京大学大学院工学系研究科 都市持続再生学コース
Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

東大まちづくり大学院
Urban Engineering Civil Engineering Architecture